

CSR Report

Corporate Social Responsibility

2025

CONTENTS

トップメッセージ	01
会社概要	02
事業紹介	03
ステークホルダーエンゲージメント.....	06
ビジネスモデル	06
環境配慮商品	07
お客様	
生産体制の効率化	08
生産能力の強化	08
お役立ち活動	09
アフターサービス	10
商品リサイクル	10
品質マネジメント	10

従業員	
雇用促進	12
安全衛生・労使関係	13
人材育成	15
環境	
環境マネジメント	16
環境パフォーマンスデータ	20
事業活動と環境影響	21
調達	
社会貢献活動	24
コンプライアンス	
コーポレートガバナンス	26



トップメッセージ



株式会社トランテックス
代表取締役社長

森 茂

これまでの歩み

2018年度に策定した中期経営計画では、持続的成長と事業基盤の強化を目指し、2拠点でのウイング生産体制の確立、小型トラックの拡販、グローバル展開、そして新商品の拡充という四つの成長戦略を掲げました。2拠点生産体制は順調に立ち上がり、古河工場の安定稼働によって本社工場とともに生産力の拡充を実現し、お客様の多様なニーズに迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えました。また、小型トラックの販売拡大や海外市場への進出、新商品の開発・量産化など、多方面で大きな成果を収めることができました。コロナ禍や能登半島地震などの想定外の困難も経験しましたが、従業員一人ひとりの努力とチームワークによって乗り越え、現在の安定した事業基盤を築くことができたことは、私たちの大きな誇りであり、今後の成長への確かな土台となっています。さらに、社会的責任を果たす企業としての意識も高まり、地域社会や環境への貢献活動も着実に進めてまいりました。

次なる成長ステージへ

新たに策定した中期経営計画では、2030年までに持続的成長と社会貢献を両立する企業を目指しています。私たちは市場ニーズに応える生産体制をさらに強化し、高品質な商品を迅速かつ効率的に提供するとともに、お客様仕様にも柔軟に対応できる体制を整えていきます。挑戦と成長を継続し、設備投資や業務効率化を積極的に行い、企業基盤の強化につなげていきます。また、製品のライフサイクル全体でCO₂削減を推進するとともに、お客様の荷役事故防止や労災防止などの安全活動を通じて社会への貢献も積極的に進めていきます。従業員の働きやすさや健康の確保にも注力し、研修や

キャリア開発を通じて個々の成長を支援していきます。これらの取り組みは、従業員一人ひとりのモチベーション向上と、組織全体の持続可能な成長を後押しする重要な基盤です。

本社工場では、労働環境の改善とともに、生産性向上および老朽化対策を目的として、シャシ架装工程の山島工場への移管を進め、2024年度に同工程の移管を完了しました。今後も工場再編を進めるため、山島工場を活用しながら更なる検討を進めていきます。また、休憩所や食堂等のリニューアルを順次進めることで、従業員が安心して働ける環境を整えていきます。古河工場では、新仕様や民需案件の取り込みにより生産能力を最大化し、原価低減活動を日野グループと連携して推進していきます。さらに、全社的な業務効率化や省人化を進めるため、デジタル技術やAIを活用し、迅速で柔軟な生産・営業体制を構築しています。これらの取り組みにより、安定した生産体制を維持しながら顧客期待に応え、収益基盤の強化も着実に図っています。加えて、全社的な環境配慮や安全・防火意識の向上を徹底することで、従業員や地域社会、さらには次世代にまで誇れる企業としての信頼を高めていきます。

2030年に向けた成長ビジョンと社会的使命

2019年度に生産台数のピークを迎えましたが、コロナ禍や日野自動車の認証不正問題により一時的に需要は減少しました。2024年度には業績を回復させ、2025年度からは事業再成長の第一ステップを開始しています。2030年には持続的成長と競争力強化を実現し、業界No.1の地位を確立することを目指しています。業界No.1を目指すという目標は、単なる売上やシェア

の拡大だけでなく、社会的責任や環境への配慮、持続可能性の観点からもリーダーであり続けることを意味します。全従業員がこのビジョンを共有し日々の業務に反映させることで、お客様にとっての最良のパートナーとなり、業界全体の発展に寄与してまいります。

今後もお客様、仕入先様、地域社会の皆様とともに挑戦を続け、地域社会や次世代に誇れる企業として、より良い未来を創造するために、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。私たちは、これからも革新と挑戦を忘れず、従業員一人ひとりの成長と幸福を大切にしながら、社会に必要とされる企業として責任ある行動を続けてまいります。

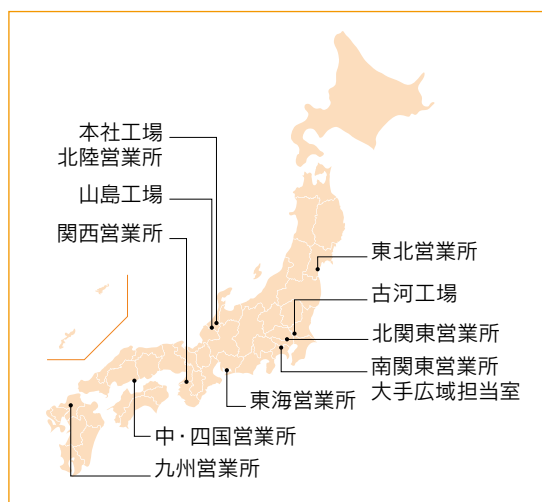
会社概要

株式会社 トランテックス

- 本社所在地 石川県白山市徳丸町670番地
- 設立 1930年3月
- 創立 2002年10月
- 資本金 11億円
- 従業員数 1,396名
- 製品 トラックボデー、特殊車両
- 生産・販売拠点



本社工場



トランテックス基本理念

基本理念は会社の使命と基本方針からなり、私たちトランテックスが社会の中で存在する意義、社会に対して果たすべき責任や方針を明確にしております。

会社使命

- 地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する
- お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする

基本方針

- 人と地球環境に配慮し、社会とのつながりを大切にする
- 常に技術革新に努め、お客様のお役に立つ商品やサービスを提供する
- 変化を的確に捉え、社会との調和を図り、グローバルな視点で事業展開を行う
- 社員の能力を最大限に発揮し、プロ集団としての総合力を高める

事業紹介

大・中・小型のトラックボデーを開発・設計・製造・販売し、アフターサービスとしてリニューアル工事や部品販売を行っています。

トラックボデー生産

■大型車シリーズ

長距離、大量輸送に欠かせない大型シリーズです。積載量重視型、容積重視型、専用輸送型など、おすすめ仕様のほか、用途に合わせた最適ボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン（ハイスライダー付）

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイング

冷凍機付ウイング



ハイウイングクール（冷凍機付）

冷凍ウイング



ハイウイング・コールド“S”

幌ウイング



ワンタッチ幌（手動式）

ブロック煽り



ハイブロック

■中型車シリーズ

配送から長距離輸送まで、あらゆるシーンで活躍する中型車シリーズです。軽量タイプや、おすすめ仕様のほか、用途に合わせたボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍 (床下格納式リフター付)

冷凍機付ウイング



ハイウイングクール (冷凍機付)

ドライウイング



ハイウイング

幌ウイング



ワンタッチ幌 (手動式)

ブロック煽り



ハイブロック

■小型車シリーズ

市街区の集配から中・近距離輸送に最適、機敏な小型車シリーズです。

ドライバン



ハイスター・バン

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイング

ブロック煽り



ハイブロック

リニューアル・部品販売

ボデーの載せ替え、キャブ・ボデー塗装、リヤ扉外板張替え、デザイン文字製作等や修理・ドレスアップ用の部品販売を行っています。

■ドレスアップ部品の一例

【アルミ製及びステンレス製サイドガード】



アルミ角パイプ型



ステンレス丸パイプ型



ステンレス角パイプ型

【煽り中間部ウイングロック】



オールステンレス製



BOX本体のみ
ステンレス製

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの関わり

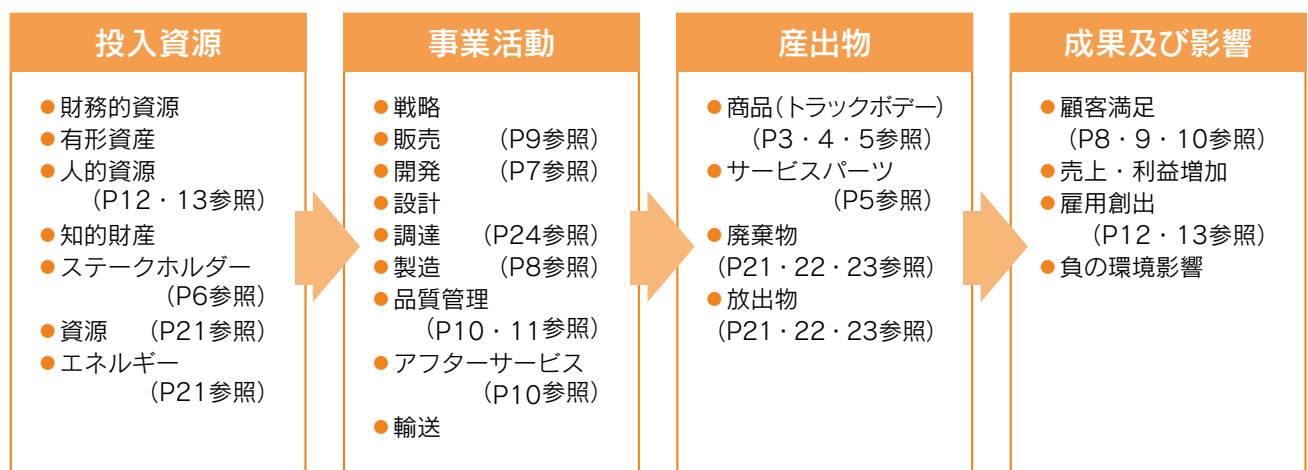
当社はお客様、仕入先様、従業員、地域社会を重要なステークホルダーと位置づけ、それぞれと良好な関係を維持することが安定的・持続的な成長には不可欠であると認識し、担当部署を中心に積極的なコミュニケーションを図っています。

ステークホルダー	重要な課題	コミュニケーション手段	参照頁
お客様	環境配慮商品の提供、生産体制の効率化、お客様に役立つ情報提供、品質保証、迅速な対応とサポート	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の営業活動 ● お役立ち活動メニューの提供 ● 定期訪問 	P7・8 9・10・11
仕入先様	より良いパートナーシップに向けた適時・適切な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕入先会議（毎月） ● 仕入先総会（年1回） 	P24
従業員	労働安全衛生の推進、人材の積極採用・育成、処遇改善、コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 社内報 ● 研修、教育 ● 安全衛生委員会 ● 相談窓口 	P12・13 14・15・25
地域社会	環境保全、社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域懇談会（年1回） ● ボランティア清掃（原則毎月）、海岸清掃（年1回） 	P24

ビジネスモデル

ビジネスモデルの概要

下図は当社のビジネスモデルの概要について「投入資源」・「事業活動」・「産出物」・「成果及び影響」に分けて表現したものです。当社は持続的に価値を産み出す仕組みを維持・改善し、基本理念に掲げる「地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する」「お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする」企業を目指していきます。



環境配慮商品

環境配慮商品の開発

カーボンニュートラル社会の実現を見据え、環境調和と技術革新の両立を図りながら、持続可能な未来につながるモノづくりを進めています。

■次世代モビリティ（水素シャシ・小型電動キャブ付きシャシ）用リヤボデーの開発

各業界でカーボンニュートラル実現に向けた取り組みが進む中、運輸部門では、CO₂排出量の約4割を占める商用車分野において電動化が加速しています。当社もその一翼を担うべく、大型水素シャシおよび小型電動キャブ付きシャシ向けのリヤボデー開発に取り組んでいます。

特に大型水素シャシについては、これまで金沢工場で行っていたボデー生産・架装を、シャシと同一拠点である古河工場に集約しました。これにより、シャシの陸送に伴うCO₂排出の削減、生産効率の向上、そして環境への配慮を両立する生産体制を実現しています。今後も、環境負荷の低減と次世代モビリティの発展に貢献する製品開発を通じて、持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。



水素シャシ用リヤボデー



小型電動キャブ付シャシ用のリヤボデー

■環境負荷低減と輸送効率向上に貢献する小型ドライウイングの開発

当社では、環境負荷の低減と輸送効率のさらなる向上を目指し、新たに小型ドライウイングを開発しました。本製品は、従来モデルに比べて軽量化を実現し、車両の燃費改善とCO₂排出量の削減に貢献しています。また、庫内容積の拡大による積載効率の向上により、運搬あたりの輸送効率も改善しました。さらに、他製品との部品共通化を進めることで在庫削減と生産効率の向上を図るとともに、設計工程の一部をシステム化・自動化することで設計効率を高め、エネルギー使用量の削減にもつなげています。当社は今後も、環境にやさしく、持続可能な社会の実現に貢献する製品づくりを推進してまいります。



お客様

生産体制の効率化

当社は、生産体制の効率化を目的に、本社工場のシャシ特装工程を山島工場に移管し、シャシ受入・保管機能を強化しました。これにより、保管期間中にシャシに関する工事を完了できる体制を構築し、シャシ移動の効率化および本社工場内の車両台数削減を実現しました。さらに、お客様の多様なニーズに柔軟に対応するため、生産方式を従来のライン生産からドック生産方式（6ドック体制）へと変更しました。この取り組みにより、生産性は約10%向上し、生産量の変動にも柔軟に対応できる体制が整いました。



山島工場の外観



生産ライン

また、新たな建屋の増築にあたっては、従業員が安心して働く環境づくりを重視しました。

空調設備の完備や男女別休憩室の設置など、快適性と安全性の両立を図る仕様とし、従業員の健康と働きやすさを支える職場環境を実現しています。



休憩室

生産能力の強化

トランテックス古河工場は日野自動車古河工場の敷地内に2022年1月に立上げを行い、大・中型のVQウイング（メーカー完成車）を中心に生産をしています。商品力強化のためボデーオプションを充実し、また同一敷地内で日野自動車が生産するシャシとの一貫生産により大幅なリードタイムの短縮を実現しており、お客様のご要望に一日でも早くお応えする体制ができあがりました。引き続き生産現場での改善活動を行い、高品質・短納期のモノづくりを進めていきます。



古河工場の外観



生産ライン

お役立ち活動

営業部門は本業であるボデー販売はもちろん、お客様の様々なご要望・お悩みにお応えし、お客様の本業の発展に少しでも貢献させていただきたいと考え、「お役立ち活動」を行っています。「お役立ち活動」の一環で、お客様に当社の持つノウハウをご提供させていただく「お役立ちメニュー」は18種類をご用意させていただいております。

【お役立ちメニュー】

- ウイングの取扱いについて
- テールゲートの安全操作
- 冷凍車の商品知識
- ロールボックス輸送の注意点
- ラッシングベルト使用時の注意点
- 乗務員様マナー研修
- 冷凍バンの取扱いについて
- 冷凍バンでの品質管理について
- ウイングへの安全な荷積みについて
- 荷卸し作業KYT
- リヤボデーお手入れ方法のご提案
- コンプライアンス講習
- 車輛後退時の安全確認講習
- 冷凍ボデーのメンテナンス
- ウイングボデーのメンテナンス
- トランテックス安全管理手法のご紹介
- トランテックス改善事例のご紹介
- 体調管理講習

【お役立ち活動実施事例のご紹介】

【大手広域担当室】

- 実施先：運送会社様
- 実施内容：テールゲート及びロールボックス操作に関する講習
- 参加人数：70名
- 参加者の声：カゴ台車を落とす説明では大きな音や折り畳みコンテナの破損状態から事故を起こした時の被害の大きさや、正しいゲート操作の必要性和重要性が理解できたと思います。



トランテックス

(株)トランテックスお役立ちメニュー

ロールボックス輸送の注意点

いろいろな固定方法でのロールボックスの走行中の動き動画で紹介し、**積荷の損傷事故防止や荷台の維持費低減**のお手伝いをします。

◆主な説明項目

1. ロールボックス固定の荷台への影響
2. 固定方法の違いによる走行中の積荷の動き(動画)
3. 荷物を積む際の注意点



説明会の実施要領

項目	内容
対象	乗務員様
所要時間	約30分
説明場所	会議室
人数	数名様から実施します。

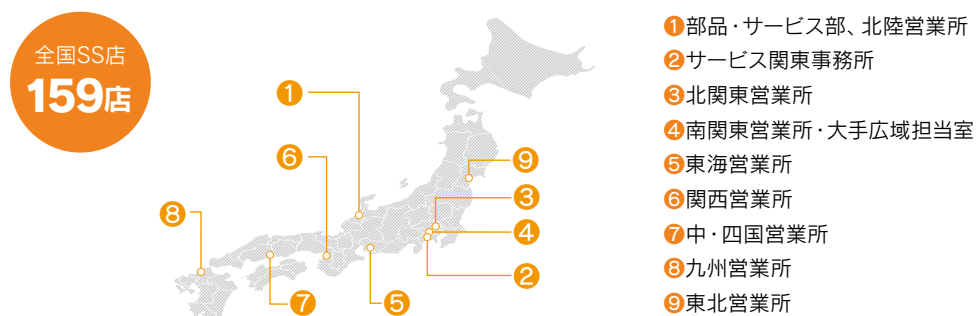
よりよくご理解いただく為、以下のような説明をおこないます！

- ☐ 動画を使い、わかり易く説明します！
- ☐ 説明時間、内容等はお客様のご要望に合わせて調整します！

アフターサービス

アフターサービスNO.1を目指して

アフターサービス部門ではお客様に商品をお届けした後も、定期訪問状況や有事発生時の対応状況を数値化し、アフターサービスNO.1に向けて活動しています。また、お客様の身近な存在として全国の販売会社様および全国150を超えるSS店様と連携しながら、すばやく正確な修理を実施し、お客様にご満足いただけるアフターサービスを目指しております。

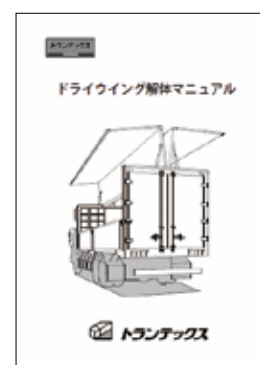


商品リサイクル

自動車リサイクル法の対象は乗用車・商用車(キャブ付シャシ)と一部の架装物となっています。当社の商品であるドライバン、保冷・冷凍バン、ウイングバン等はリサイクル法の対象外ですが、リサイクル処理ができるように一部の商品につきましては解体マニュアルを作成し当社ホームページで情報提供しています。

【解体マニュアル対象商品】

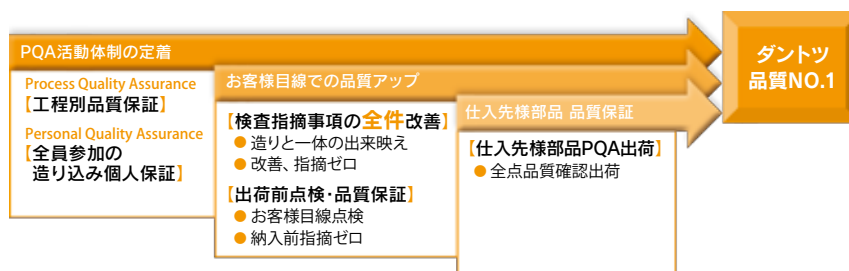
- ドライバン
- ドライウイング
- ウレタン注入発泡 保冷・冷凍バン
- ポリスチレン接着パネル 保冷・冷凍バン
- 冷凍ウイング
- 冷蔵ウイング
- 幌ウイング
- 平ボデー



品質マネジメント

品質管理活動方針

当社では①PQA活動体制の定着②お客様目線での品質アップ③仕入先様部品品質保証の3点を具体的な取組み方針とした「ダントツ品質NO.1」を品質管理活動方針としています。



品質管理体制

工程別品質保証をベースに、毎日開催する稼働会議（※）でも品質課題について関係者全員で共有しています。また、月1回、全役員が参加する品質会議も開催し、重要品質問題の対応状況等について意見交換も実施しています。

（※）生産部門・生産管理部門・品質保証部門・開発部門の責任者が参加し、前日の生産状況を振り返り対応課題の明確化等を行う会議体。



ISO9001認証取得

当社ではお客様目線での品質確保に向けた活動を続けてきていますが、その一環として品質マネジメントシステムに関する国際規格であるISO9001の認証取得をしています。外部認証機関による審査を通じて日々の品質活動を客観的に評価いただき、そこで得た改善点をこれからの自分たちの品質活動の向上に活かし、お客様の満足につなげていきたいと思えます。

組 織 名	株式会社トランテックス
・事業所名	本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）
対象業務	管理・営業・トラック車体の開発・設計・製造及び付帯サービス（メンテナンス・修理・部品の販売）
・事業所名	山島工場（石川県白山市矢頃島町1025番地）
対象業務	完成車の出荷及び特装業務並びに事故車の修理点検
・事業所名	セリオ松任（石川県白山市徳丸町222番地）
対象業務	トラック車体の部品製造
・事業所名	古河工場（茨城県古河市名崎1番地）
対象業務	トラック車体の製造

リコールへの取り組み

商品に問題が発生し、処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に部品交換、改修（点検、修理等）を迅速に実施しています。またリコール情報はトランテックスのホームページ上に開示しています。

不具合対応状況

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
リコール ^{※1}	2件	1件	1件	1件	1件
改善対策 ^{※2}	0件	0件	0件	0件	0件
サービスキャンペーン ^{※3}	0件	0件	0件	1件	0件

※1 リコール

道路運送車両の保安基準に適合していない又は適合しなくなるおそれがある状態で、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、保安基準に適合させるために必要な改善措置を行うこと

※2 改善対策

不具合が発生した場合に安全の確保及び環境の保全上看過できない状態であって、かつ、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、必要な改善措置を行うこと

※3 サービスキャンペーン

リコール届出や改善対策届出に該当しないような不具合で、商品性・品質の改善措置を行うこと

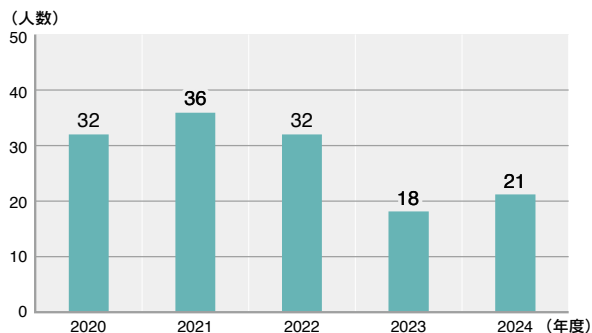
従業員

雇用促進

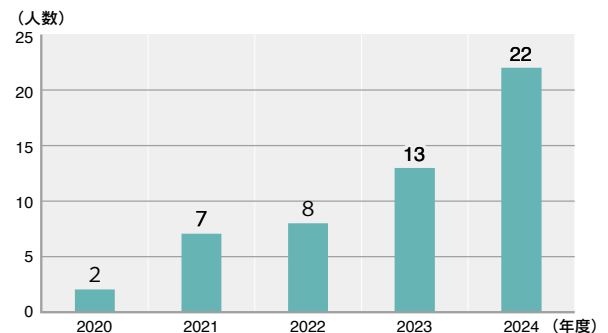
新規正社員雇用への取り組み

多様な人材を様々な年代・経歴から採用するため、新卒採用に加えて即戦力としての中途採用、そして期間従業員からの正社員登用を積極的に行っております。2024年度は大卒・高卒を含めた新卒採用で21名（女性2名含む）、中途採用で22名、期間従業員の正社員登用で17名の採用を行いました。

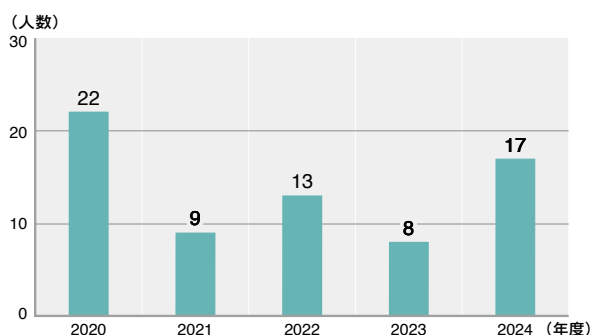
【新卒採用数の推移】



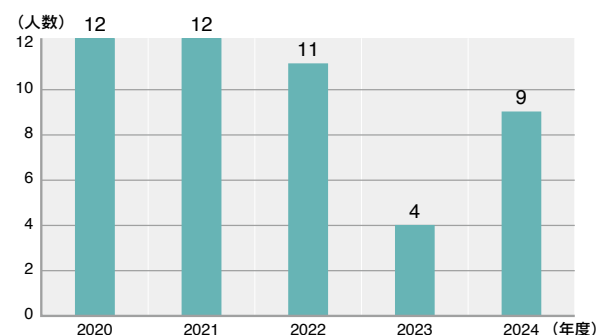
【中途採用数の推移】



【期間従業員の正社員登用数の推移】



【女性採用数の推移】



育児休暇の取得状況

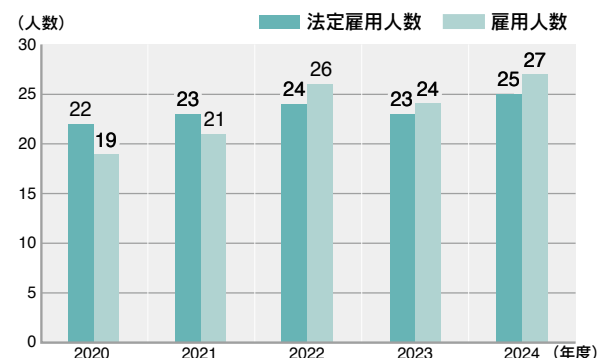
育児休暇の取得対象者45名に対して実際の取得者は16名でした。仕事と育児を両立して活躍できる職場づくりに向けて、より制度を利用しやすい職場環境づくりを進めていきます。

	人 数
育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数	45 名
育児休暇を取得した従業員の総数	16 名

障害者雇用の状況

製造部門を中心に働きやすい環境整備を進め、積極的に障害者雇用を進めています。2024年度は障害者法定雇用人数25名に対して27名の雇用となっていますが、これからも一人でも多くの雇用・定着に繋がるように社内改善を進めるとともに各種団体のご支援を受けながら、取り組みを進めていきます。

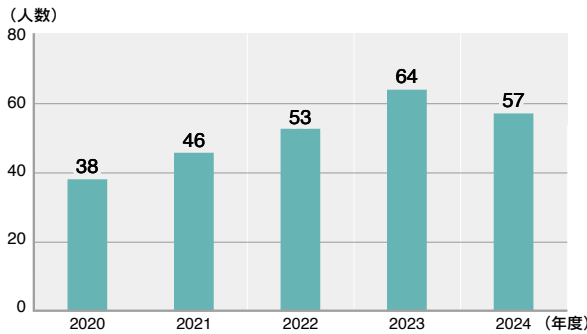
【障害者雇用人数の推移】



60歳定年後再雇用の状況

製造・設計・販売等の各段階で品質維持向上のため、技術に習熟し経験を積み重ねた従業員の確保が必要とされ、また一方で、60歳定年後もこれまで培った技術・経験を活かして働きたいという方にも安心して働ける職場の整備も必要となっています。当社では定年退職の再雇用を積極的に進めており、2024年度は57名を再雇用させていただいております。

【60歳定年後再雇用在籍者数の推移】



安全衛生・労使関係

安全衛生への取組み

当社は「安全は全てに優先する」を安全衛生基本理念に掲げ、総括安全衛生管理者をトップに、産業医と連携しながら「人への安全意識向上」「車両安全対策」「法令遵守」「快適職場環境づくりの推進」「心身の健康管理」「通勤災害の防止」などの観点から各種取組みを実施し、自主自立の安全文化構築を進めています。2024年度の災害発生件数は7件、度数率は1.59となりました。引き続きゼロ災害達成に向けて全社をあげて取り組んでいきます。

【2024年度の主な活動】

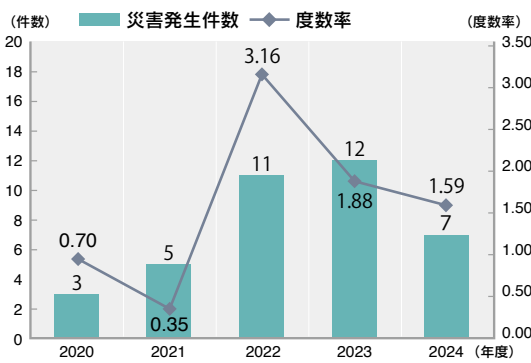
実施項目	
重災ゼロ活動	車両安全ルールの再教育と実務確認
	危険撲滅やりきり活動の継続
	安全作業要領書の充実化と運用
	管理監督者による安全パトロールの実施
安全人間づくり	管理監督者と作業者の1対1対話活動の推進
	各種安全教育の実施
	各職場安全ミーティング等による安全意識向上
	AED教育の実施
法令遵守	化学物質法改正への対応
	安全関係資格保持者の確保
からだの健康づくり	定期健診結果に基づく健康指導の実施
	熱中症対策の実施
こころの健康づくり	メンタルヘルス対策の推進

安全衛生基本理念

「安全は全てに優先する」

- 安全なくして、企業の発展なし
- ルールを守らずして、安全なし
- プロとしての自覚なくして、安全なし

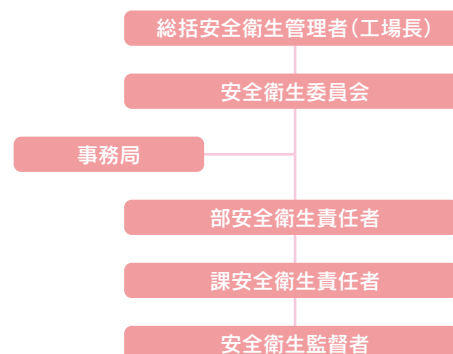
【災害発生件数と度数率】



安全衛生組織

当社では安全衛生活動を円滑に推進するため、工場長を委員長として会社側従業員（※）、労働組合側従業員（※）、そして産業医を構成メンバーとした安全衛生委員会を本社工場および古河工場で毎月1回開催しております。尚、本社工場安全衛生委員会には各子会社代表者にも参加いただいています。

（※）会社側従業員と労働組合側従業員の人数は同数



安全衛生関係の講習会・講演会の実施

各職場の管理監督者を対象にAEDの使い方および心臓マッサージの講習会を実施しました。今後も継続的に実施し、従業員の体調急変時にも冷静に対応できる人材育成を行っていきます。また、全国安全週間および全国労働衛生週間行事の一環として当社産業医を講師として「転倒防止」や「健康診断結果の見かた」をテーマに講演会を開催しました。転倒防止に関する講演では、作業環境管理・作業管理・健康管理の重要性を改めて認識させられる内容で、多くの気づきと学びを得ることができました。

●AED講習会



労使関係

トランテックスとトランテックス労働組合は定例の労使会議を持ち、様々な検討を重ね、労働条件の改善に努めています。また、労働組合側からの職場環境改善要求を通じて一歩ずつ改善を進めています。

人材育成

人材育成の取組み

当社従業員の共通の価値観として「私たちの志（情熱・挑戦・思いやり）」と「私たちの実行（創意工夫・進化・結束）」を掲げ、従業員のスキルや能力の開発・向上のため階層別研修や専門教育を実施しています。これからも従業員一人ひとりがもつ能力を十分に発揮できるように、社内教育の改善・充実を行っていきます。

【トランテックス・スピリット】

私たちの志

情熱
出来ない言い訳はしない。課題・問題を解決するため、全力を尽くして取り組みます。

挑戦
技能・能力を高めるため、自ら高い目標を掲げ挑戦します。

思いやり
後工程やお客様に満足していただくため、常に細心の心配りをします。

私たちの実行

創意工夫
品質向上のため、あらゆる知恵を絞り、スピード感を持って、自らが進んで改善を行います。

進化
今日よりも明日、より成長するため、何事にも自ら進んで行動します。

結束
組織力を高めるため、自ら進んで仲間と協力します。

【階層別教育体系】

	事務職	技術職
部長クラス	部・次長クラス研修	
次長クラス		
課長クラス		
中堅クラス	係長・主任 クラス研修	課長クラス研修
		新任工長研修
		新任職長研修
		新任指導員研修
		TPS研修
		QC研修
		TWI研修
		対話型巡視管理監督者研修
新入社員	新入社員研修	

【2024年度に実施した主な階層別研修】

	内 容	受講者数
階層別研修	部次長クラス研修	52名
	課長クラス研修	23名
	職長研修	6名
	指導員研修	23名
部門別研修	新規（更新）車両運転車・誘導者講習	279名
	TWI研修	13名
	TPS研修	5名
	KY力強化講習	178名



環 境

環境マネジメント

環境基本方針

トランテックスは地球環境の保全を経営における最重要課題の1つであるとの認識のもと、2003年10月、企業理念に基づく「トランテックス地球環境憲章」を制定し、環境保全活動を積極的に進めています。

■基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ長期的に進める

地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっているとの認識のもとに、全社を挙げて、仕入先等の関係者とも協力して、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階における環境への影響を考慮した環境保全のための対策を、長期的視点に立って推進する。

2. 地球環境の保全を広い視野で身近な行動から進める

豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全のための行動を進める。

■行動指針

1. 環境負荷のより小さい事業活動をめざす

- 工場・事業所の立地における環境への配慮
- 地球環境にやさしいトラックボデーの開発
- 排出物を極力出さない生産活動
- 省エネルギーと省資源、リサイクルの推進

2. 関係者と協力しながら進める

仕入先、関係会社等と協力し、事業活動の様々な段階において、また、事業所の内と外とにおいて、環境保全に努める。

3. 社会への貢献を心がける

社会においては良き市民として、また、地域社会においては良き隣人として、社会や地域における環境保全の諸活動に協力する。

4. 自己啓発を図る

社会に対して開かれた企業として、また、企業人であるとともに良き市民として、地球環境問題に関して広く社会に学び、会社ならびに社員ともに自己啓発を図る。

環境方針

当社では基本理念、トランテックス地球環境憲章及びトランテックス地球環境行動計画等を受けて、環境に与える影響（著しい環境影響）、関連法規、利害関係者との関係等を配慮し、継続的改善及び汚染の予防のための基本方針（行動原則）として、環境方針を定めています。

トランテックスは、トラックボデーなどの開発・生産・販売・サービスを通じて、環境に与える影響を常に認識し、白山の豊かな自然や社会と調和する企業を目指して、全員参加で環境保全活動を推進します。

1. 私たちは、環境管理システムの効果的な運用と継続的改善をはかり、環境汚染の予防に努めます。
2. 私たちは、環境に関する法規制や私たちが守ると約束した協定・指針などを遵守し、社会とのつながりを大切にします。
3. 私たちは、環境への排出物や廃棄物を抑え、リサイクルを推進し、エネルギーや資源の効率的な利用を進めます。
4. 私たちは、環境に負荷を与える有害な物質の使用量を減らし、ライフサイクルを考慮した環境に優しい製品の開発を進め、提供します。

ISO14001認証取得

当社は環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

組 織 名	株式会社トランテックス
・ 事業所名	本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）
対象業務	管理・営業・トラック車体の開発・設計・製造及び付帯サービス（メンテナンス・修理・部品の販売）
・ 事業所名	山島工場（石川県白山市矢頃島町1025番地）
対象業務	完成車の出荷及び特装業務並びに事故車の修理点検
・ 事業所名	セリオ松任（石川県白山市徳丸町222番地）
対象業務	トラック車体の部品製造
・ 事業所名	古河工場（茨城県古河市名崎 1 番地）
対象業務	トラック車体の製造

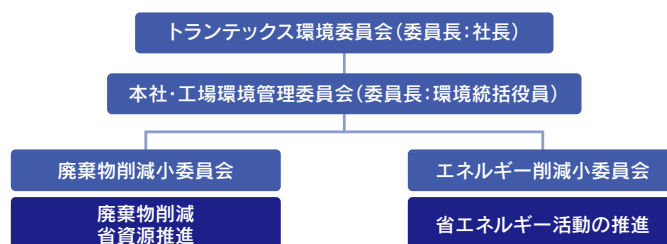
環境活動と実績

【2024年度の主な活動】

	活動項目	活動実績	関連項
社会の構築 環境保全と 自然共生	自然共生社会構築に資する 社会貢献活動の推進 社会貢献活動の実施	● 海岸清掃イベント「クリーンビーチいしかわ」参加 ● 本社工場周辺清掃活動の実施	P24
低炭素社会の構築	生産活動における省エネ活動の徹底と 温室効果ガス排出量の低減 生産CO ₂ の低減	● 生産部門を中心とした生産性改善実施 ● 高効率LPGボイラーへの更新 ● 塗装工程での使用電力量の削減 2024年度 生産CO ₂ 総排出量 4,996t	P20・23
	物流活動における輸送効率の追求と CO ₂ 排出量の低減 物流CO ₂ の低減	● 一部区間での高速道路使用による効率的な完成車輸送 ● 部品輸送時の積載効率改善による便数低減 2024年度 物流CO ₂ 総排出量 1,671t	P20
循環型社会の構築	生産・物流における廃棄物の低減と 資源の有効活用 廃棄物の低減	● 歩留り改善実施 ● 逆有償アイテムの有償処理化の目途付け 2024年度 廃棄物 総排出量 1,219t	P20・22
	物流梱包材の低減	● 同一行き先同梱包による梱包材低減 2024年度 物流梱包包装資材 総量 38.7t	
	水使用量の低減	● 埋設配管の漏水箇所修繕 2024年度 水 総使用量 147千㎡	
環境経営	環境教育活動の充実と推進	● 各部署での教育実施	P19
	環境情報の積極的な開示と コミュニケーションの充実	● CSRレポート発行 ● 近隣町内会役員の方を交えての地域懇談会実施 ● 工場見学の受入れ	P24
	異常苦情ゼロ・リスクの最小化	● 工場内・外周の定期的な環境パトロールの実施 ● 外部専門業者による環境測定の実施	—
	環境マネジメント	● 環境監査実施 ● 環境コスト把握 ● 地下水保全	P18・19

マネジメント推進体制

トランテックスは環境保全を推進するため、全社の組織として社長を委員長とする「トランテックス環境委員会」を設置し、基本方針の決定と諸活動の総合推進を図っています。また、下部組織として本社・工場環境管理委員会と2つの専門委員会を設置し、本社・工場環境管理委員会は、原則毎月開催とし各種課題の進捗管理・検討・審議等を行っております。また、2つの専門委員会は、事業活動による環境負荷の低減として大きな課題であるCO₂低減・廃棄物低減などの個別の専門テーマに対して、部門横断的な視点からアプローチをしています。



環境会計

環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動に効果的かつ継続的に取り組むため、環境会計に取り組んでいます。尚、環境保全コストは①投資額は対象期間の投資のみとする②経費の中に減価償却分は含めない③環境保全以外の目的を含んでいる設備投資や費用については、環境対応分が明確に把握できるもののみ計上することとしました。環境保全対策にともなう経済効果については、把握可能な項目のみ集計しました。

【環境保全コスト】

[単位:百万円]

分 類		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	14.9	11.0	29.8	12	7.7	11.5	29.2	10.7
	地球環境保全コスト	81.8	—	—	—	6.2	—	14.2	—
	資源循環コスト	2.9	83.8	—	71.2	1.7	95.6	—	102.2
上・下流コスト		—	0.3	—	—	—	—	5.4	—
管理活動コスト	EMSの整備、運用	—	0.9	—	1.6	—	1.2	—	0.6
	環境情報の開示・広告	—	0.3	—	0.2	—	0.2	—	0.2
	環境測定	—	3.7	—	3.2	—	3.5	—	3.3
	従業員の教育	—	—	—	—	—	0.1	—	0.1
	景観保持	—	—	—	—	—	—	—	—
研究開発コスト		—	3.0	—	—	—	4.0	—	18.4
社会活動コスト		—	—	—	—	—	—	—	—
環境損傷対応コスト		—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		99.6	103.0	29.8	88.2	15.6	116.1	48.8	136.1

【環境保全対策にともなう経済効果】

[単位:百万円(—は十万円未満)]

	2022年度	2023年度	2024年度
リサイクルによる事業収入	159.3	220.1	224.8
省エネルギーによるエネルギー費の節減	0.3	1.6	2.1
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	13.7	0.3	0.3

【物量効果】

	2022年度	2023年度	2024年度
CO ₂ 低減 (t-CO ₂)	-151	-3,244	+295
廃棄物総排出量低減 (t)	+188	-260	-125
PRTR対象物質排出量・移動量削減 (t)	-27.1	+47.8	+19.1

環境監査

環境マネジメントシステムの適合性・有効性を客観的に評価するため環境内部監査を行い、外部審査機関による審査を受審しています。また、両監査で取り上げられた内容はマネジメントシステム改善に活用しています。



内部監査

環境教育・訓練

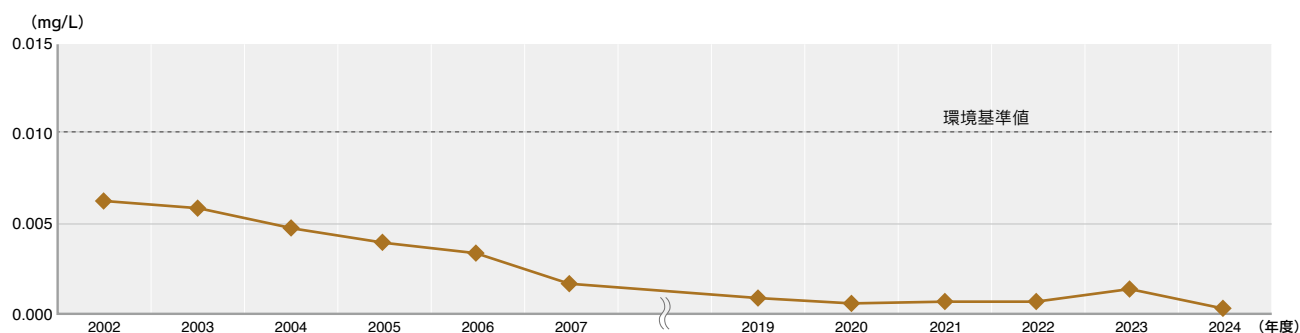
環境教育として各所属長を対象とした管理者研修、各職場単位での研修、新入社員研修を行っています。また、環境事故は環境汚染につながるだけでなく、近隣住民の方々や生産活動にも大きな影響を及ぼす可能性があることを再確認するため、各職場単位で毎年、緊急時対応訓練を実施しています。



漏洩緊急時の訓練

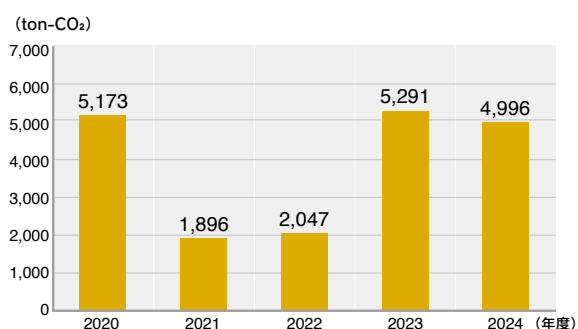
地下水保全への取り組み

当社では過去に有機塩素系化合物であるテトラクロロエチレンを使用しており、1996年に使用を全廃しましたが1998年に本社・工場敷地内の1ヶ所で環境基準を上回るレベルが確認されました。1998年以降行政指導の下、積極的に浄化対策を進めており、土壌内の汚染ガスの吸引及び地下水揚水による浄化対策の結果、濃度は低位で安定しております。

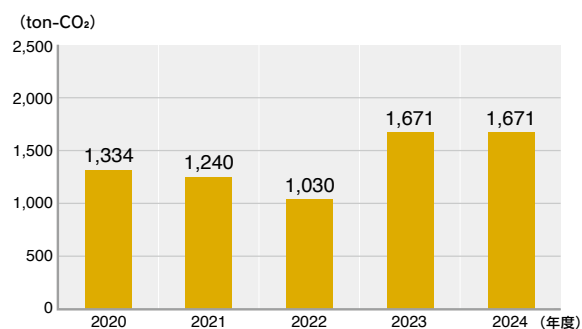


環境パフォーマンスデータ

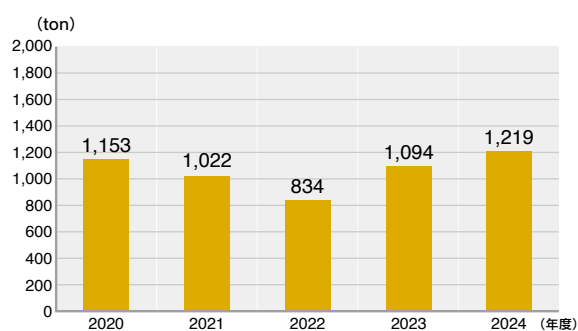
【生産CO₂排出量】



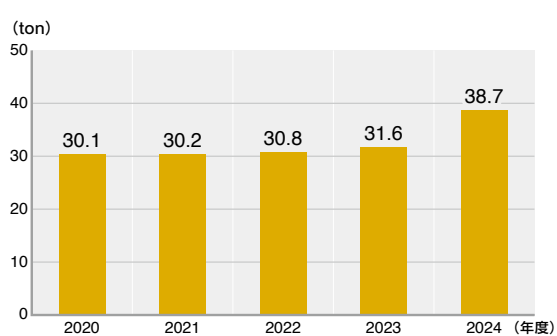
【物流CO₂排出量】



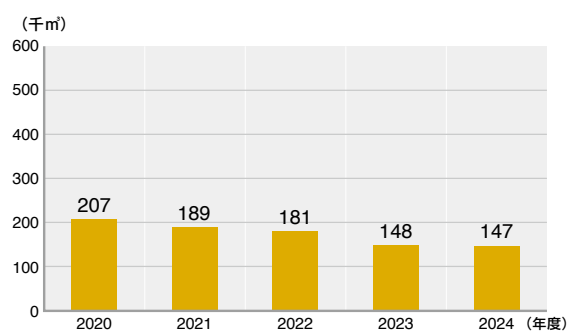
【廃棄物排出量】



【物流梱包包装資材総量】



【水使用量】

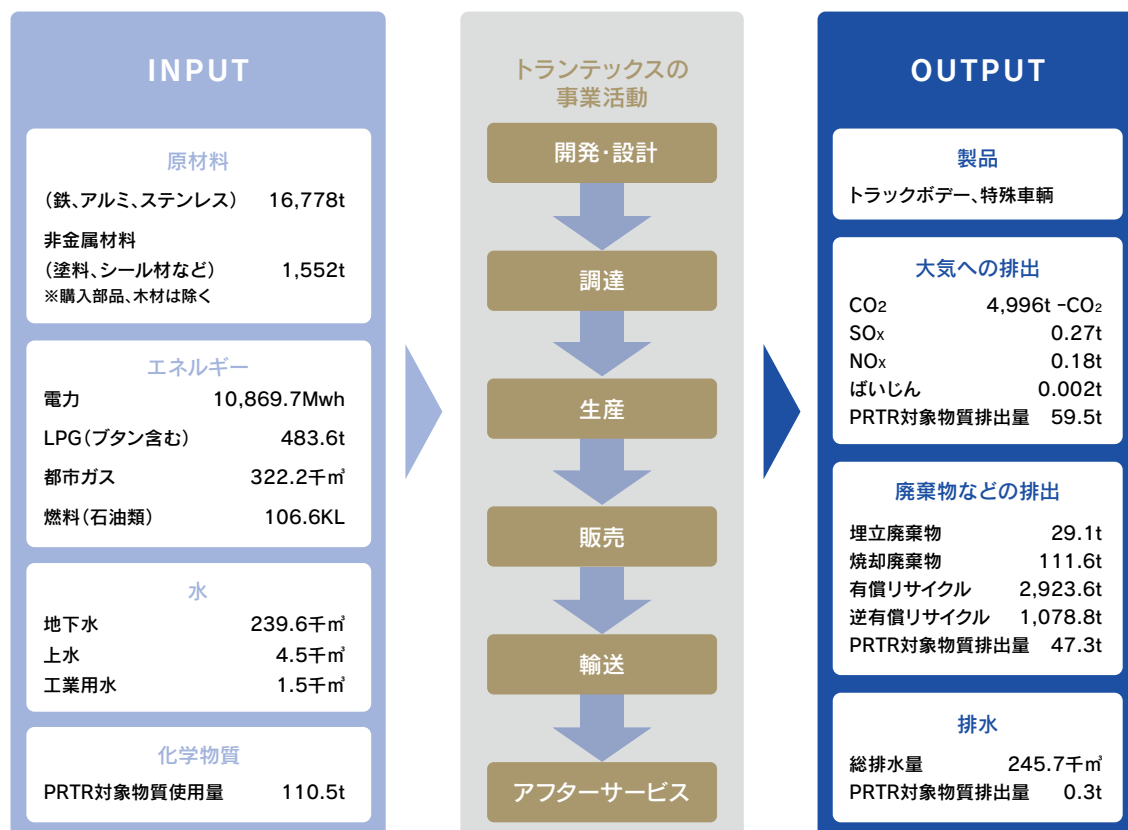


事業活動と環境影響

事業活動と環境影響

事業活動における投入資源（インプット）と排出による環境負荷（アウトプット）を定量化し、環境への影響を把握して、環境負荷低減活動に活用しています。

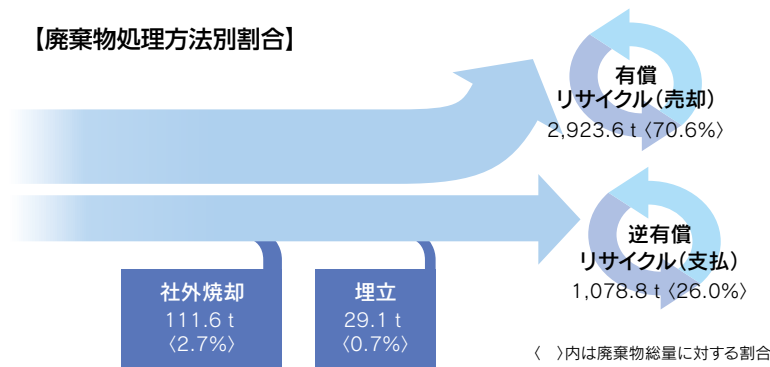
【事業活動における2023年度の投入資源と環境への排出】



PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出・移動登録制度
 SO_x : 硫黄酸化物 NO_x : 窒素酸化物

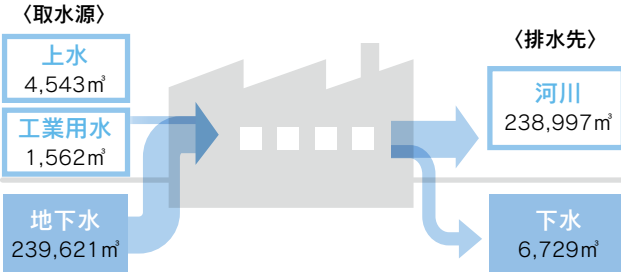
廃棄物の処理方法種類と重量

工場内で発生する廃棄物については限りある資源を有効活用していく観点から地道な活動を通して焼却処理や埋立処理からリサイクル処理へのシフトを進めています。



水源別取水量と排水先

工場内で使用される水は主に塗装工程や検査工程で使用されており、地下水や工業用水でまかなっています。使用後は廃水処理設備で適正な水質に戻してから河川放流しており、定期的に外部の専門業者に依頼して水質検査を行い異常がないことを確認しています。

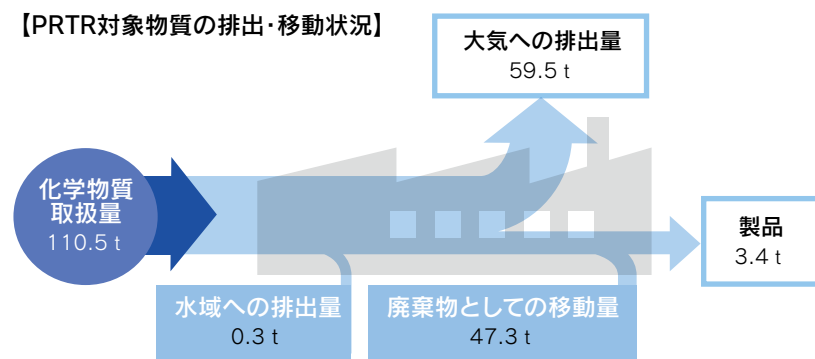


項 目	法基準値	2024年度測定値 (年間最高値)
P H	5.8以上8.6以下	6.5-6.8
B O D	30mg/L 以下	10mg/L
C O D	—	12mg/L
S S	110mg/L 以下	1mg/L 未満
n-ヘキサン動植物油	30mg/L 以下	1mg/L 未満
n-ヘキサン鉱油類	5mg/L 以下	1mg/L 未満
亜鉛	2mg/L 以下	0.8mg/L
溶解性マンガン	10mg/L 以下	0.9mg/L
鉛	0.1mg/L 以下	0.01mg/L 未満
六価クロム	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 未満
フッ素	8mg/L 以下	0.1mg/L
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物および硝酸	100mg/L 以下	3.3mg/L

大気・水質への化学物質の影響

当社では生産工程での塗料や接着等の使用により大気・水質に影響を与える化学物質を取り扱っています。自主的な活動はもちろん、各サプライヤー様と協力しながら、取扱量を減らす努力を続けていきます。

【PRTR対象物質の排出・移動状況】



温室効果ガス使用量 (kg)	
HFC125	799.2
HFC134a	72.0
HFC143a	4
HFC32	140.8
HFC1234yf	384.0

(*) 4重金属を含む11禁止物質
鉛 (Pb)
水銀 (Hg)
カドミウム (Cd)
六価クロム (Cr+6)
アスベスト
PBB (ポリ臭素化ビフェニル)
PBDE (ポリ臭素化ジフェニルエーテル)
デカBDE (デカ臭素化ジフェニルエーテル)
HBCD (ヘキサブロモシクロデカン)
PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸)
DMF (フマル酸ジメチル)

環境負荷物質(SOC)(*)使用禁止の取組み

当社は2008年生産分から商品に含まれる環境負荷物質全廃(*)を行い、現在は購入する材料・部品の環境負荷物質の有無を事前に確認する体制をとっています。(お客様指定品や一部機器は除きます。)

エコ電力導入

本社工場は2021年度から再生可能エネルギー 100%由来の電力を一部導入しています。また、古河工場も2022年度からグリーン電力証書を利用した電力を導入しました(*)。限りある資源・エネルギーの使用を少しでも減らすため、これからも使用電力量の削減を続けていきます。

* 古河工場は日野自動車古河工場の電力を利用しており、日野自動車古河工場が2022年4月よりグリーン電力証書の購入を開始

調 達

基本的な考え方

当社は当社の製品が業界トップの位置を確保できるよう、仕入先の皆様と協力して、ともに発展していくことをめざしています。仕入様には、コスト・品質・納期の最高レベル実現に向けた調達方針を提示するとともに公正な取引の維持を心がけています。

仕入先様との交流

当社では毎月、仕入先様と仕入先会議を開催し、生産計画の情報提供を定期的に行っています。その他、工場内および周辺での交通ルールの遵守やマナー向上の呼びかけなど、地域社会との共生に係わることについても展開を行っています。

また、毎年1回、仕入先総会を開催し、当社の今後の方針・調達方針を共有しています。また年間を通じて原価改善活動や品質管理活動にご功績のあった仕入先様を表彰させていただいております。



仕入先総会

調達方針

当社の商品が、最高の価格競争力を確保できるように、広く世界に門戸を開き、最適な仕入先を選定することにより、①ミニマムな価格 ②最高の品質 ③タイムリーな納期 を実現し、商品の拡販と当社の収益拡大に貢献する。

社会貢献活動

清掃活動

地域貢献活動として、石川県海岸全域の清掃活動「クリーンビーチいしかわ in はくさん」への参加と工場周辺の清掃活動を継続的にを行っています。クリーンビーチいしかわには従業員とご家族が参加し、2024年度は約70名が参加しました。また毎月実施している工場周辺の清掃活動には、毎回多くの従業員が参加し環境美化を進めています。今後も地域イベントへの積極的な参加や実施を続け、環境美化に貢献していきたいと考えております。



クリーンビーチいしかわ

地域懇談会の開催

年に1回、近隣町内会の役員様をお招きして地域懇談会を開催し、事業紹介や環境への取り組み事例紹介、工場見学を通じて会社への理解を深めていただいております。2024年度は近隣町内会から6名の役員様にお越しいただき、忌憚のない意見交換をさせていただきました。地域社内とよりよい関係作りを進めていくため、今後も定期的 to開催していきます。



コンプライアンス

当社ではコンプライアンスの実践を経営の重要課題の1つと考えており、全社的なコンプライアンス風土醸成に向けた取り組みを継続的に実施し、あらゆる場面で公正な判断・活動ができる企業集団を目指しています。

「トランテックス行動指針」

「トランテックス行動指針」は、基本理念の内容を受けて、各ステークホルダーの皆様の期待に応えるために「社員一人ひとりがどう行動すべきなのか」を具体的に明記した内容となっております。

私たちは、この「トランテックス行動指針」を日々の業務の手引書として活用し、また合わせてコンプライアンスガイドブックを活用することで、法令順守を徹底していきます。そして、各ステークホルダーの皆様の期待にお応えしたいと考えています。



コンプライアンス教育

定期的なコンプライアンス教育を行い、問題発生 of 未然防止とルールを守る職場風土づくりをしています。また取り扱う題材は業務に関連が深いものや、近時のトピックスを中心とするように工夫し、コンプライアンス問題未然防止に向けたレベルアップを図っています。

対 象	内 容
役員・管理職	管理職のコンプライアンス
管理職	管理者向け情報セキュリティ
全従業員	情報セキュリティ、ハラスメントなど
営業・サービス担当者	下請法、贈収賄防止など



各職場単位で全従業員を対象に教育を実施

コンプライアンス相談窓口

従業員がコンプライアンスに関する問題に遭遇した場合、職場を補完する相談先としてコンプライアンスオフィサーを設置し、社内への周知を図っています。従業員は直通の電話またはE-mailにてコンプライアンスオフィサーに直接相談・報告することができます。また、日野グループとして、法律事務所への相談窓口や、トヨタグループ各社向けのスピークアップ相談窓口（24時間受付）も設けています。

【従業員の相談・報告ルート】



コーポレートガバナンス

当社は基本理念に基づき、各ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を経営の最重要課題の1つと考えております。具体的には経営の透明性を確保するため、株主総会・取締役会・監査役協議会・会計監査人等の機関設置を行い、また迅速な環境変化への対応と意思決定を図るため、経営判断に基づく業務執行レベルの判断を行う執行役員会を毎週開催するなどの体制を構築しております。

取締役会

会社法で定める重要事項や経営に係わる重要事項の審議決定機関として、原則毎月1回開催しています。また、取締役の任期は、経営責任を明確にするため1年とし、非常勤取締役を1名選任しております。

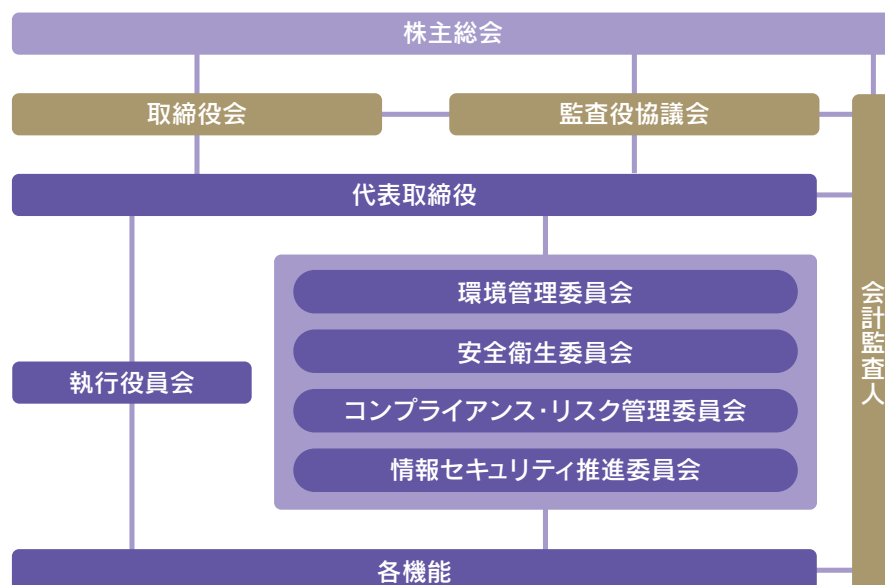
監査役協議会

取締役会の監督機能をより強化するため、常勤監査役以外に2名の非常勤監査役を選任しております。

会計監査人

2024年度はPwCあらた有限責任監査法人を選任いたしました。

【コーポレートガバナンス体制図】



編集にあたって

本レポートは、当社を取り巻くステークホルダーの皆様にご覧いただき、当社の活動を深く理解していただき、さらなる信頼をいただくことを目的としています。お読みいただいた皆様とのコミュニケーションツールとして、わかりやすく表現するよう心がけました。

対象範囲・対象期間

原則として2024年度（2024年4月～2025年3月）の実績や取り組みを対象としております。但し、一部の内容については、本レポート発行直前までの活動も記載しています。

参考ガイドライン

- ・環境省「環境省ガイドライン（2018年度版）」
- ・GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）



Corporate Social Responsibility Report 2025

本報告書の内容や当社の環境への取り組みなどについて、ご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問合せください。

株式会社 **トランテックス** 総務・人事部

〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地
TEL(076)274-2806 FAX(076)274-8191

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

発行日 2025年11月

※この報告書はトランテックスホームページ上でもご覧いただけます。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

